NEWS FROM ZION
シオンとの架け橋ニュースレター　第 39 号　2013 年 10 月（年 4 回発行）

開かれる新しい歴史の扉

ーアジア・メシアニック・フォーラムへの期待

ワン・ニュー・マン・アジア　代表
ギルバート・カルディゲス

AMF大阪プレ大会にて

私は今、アジア太平洋シャロームフェスティバルに参加するために、日本、台湾、韓国、イスラエルの人々と淡路島にいます。そして、素晴らしい時を過ごしながら台湾と沖縄の人々の間で行われた和解について学んでいます。神と人の間に、そして人と人の間での和解をもたらそうとしておられる主は、喜んでおられるでしょう。

今日の世界には多くの紛争や衝突があり、エジプトやシリア国内の争いは、2 年に及んでいます。この 2 つの国の間にイスラエルはあり、どちらの地域でも、クリスチャンが派閥争いに巻き込まれて犠牲になっているのです。聖書は、私たちが人間どうしの争いをするのではなく、政府や権威など私たちの上にある霊的な力と戦うようにと語りかけています。

> わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。
>
> エペソ 6:12

■中東やアジアの対立解決の道

これら霊的な力は、戦争を最後までやり続けたり、民族間を引き裂き続けることはできません。それらの力も、神が最後に素晴らしいことをなさる準備が整って来ていることを知ってやきもきしているのです。

イザヤは 19 章で、エジプトについて預言しています。力強く邪悪な支配者が力を得て、民が乱れ戦いが起こるエジプトの混乱は、神が業を行われる前兆です。同じ章の終わりに、神はエジプトとイスラエル、アッシリアを「高速道路」（訳注：イザヤ書の「大路」、「広い道」や「大通り」と言う表現は、英語ではその多くが Highway= 高速道路と訳されている）でつなぎ、全地の祝福とすることを約束しておられるのです。

> その日、イスラエルはエジプトとアッスリヤと共に三つ相並び、全地のうちで祝福をうけるものとなる。
>
> イザヤ書 19:24

アジアにも、中東ほど大きなものではなくてもいくつかの対立があります。フィリピンは中国や台湾と対立関係にあり、台湾と日本は、中国と対立関係にあり、韓国は日本との間に緊張があり、他にもアジアには多くの問題があります。

エペソ 2 章の、キリストにある新しいひとりの人のメッセージは一致に関するものですが、一致が起こるためには、そこに必ず和解が必要です。ある人が、一致とは簡単にいえば共同の謙遜だと言いました。別のグループの人々が共に集い、お互いの前にへりくだる時に和解が始まり、その結果が一致なのです。

■究極の和解を目指すアジア・メシアニック・フォーラム

私は、神がアジア・メシアニック・フォーラム 2013 を、このような和解の場として用いようとしておられると確信しています。シンガポールでは、今までこのような和解のための集まりが数多く行われてきました。キリスト教会でも、英語で礼拝する教会と中国語で礼拝する教会の和解、さまざまな民族と、シンガポールに住んでいる外国人の和解などが試みられ、シンガポールと日本の間の和解の時も、持たれたことがあります。

究極の一致である、キリストにある新しいひとりの人は、教会とイスラエルの間に起こります。そして、イェシュアを信じる異邦人とユダヤ人の一致に向けて、私たちは働いているのです。それは、真の一致はイスラエルを抜きにしてはもたらされないからです。

そして、この目標に向けて、アジア・メシアニック・フォーラムは行われて来ました。この大会の実行委員会のメンバーはさまざまな教会のメンバーで、私の教会のメンバーは私以外にはいません。このメンバーで毎月祈りの時を持っているのですが、その時に一人のメンバーに「タクロー」の幻が与えられました。「タクロー」とは、マレーシアなどで行われている、足だけを使うバレーボールのようなスポーツのボールです。伝統的なものは籐を編んで作られており、1 本 1 本の端が見えず、まるで 1 本で編まれたようなのです。私たちは、実行委員会や講師、スタッフがこの「タクロー」のように一致することを祈り、この聖会を通して参加者に、そしてアジア全体に一致がもたらされることを心から願っているのです。

AMFプレ大会で各国の代表に贈られた「タクロー」

シンガポールで 11 月に行われるこの聖会に参加し、神の歴史的な瞬間に参加してください。長年にわたってイスラエルから、メシアニック・ジューの指導者がアジアを訪問してきましたが、これまでに作られた関係は、個々の国や組織とイスラエルの間の「1 車線」の細道でした。神はこの聖会を用いて、これらの細道を合わせ、イスラエルとアジア諸国をむすぶ「多車線」の高速道路にしようとしておられるのです。

共に集まって、新しい歴史の扉を開きましょう。アジア・メシアニック・フォーラム 2013 本大会にご参加ください。シンガポールで会いましょう !!

「ワン・ニュー・マン・アジア」は、アジア・メシアニック・フォーラム 2013 シンガポール大会を主催するミニストリーです。その代表のカルディゲス師は、参加を呼び掛けるため、プレ大会にも参加されました。（P2）

イスラエルにあってアジアが一つに
アジア・メシアニック・フォーラム 2013
プレ大会レポート

大阪大会の様子

東京では８月 19 日にお茶の水クリスチャンセンターで、大阪では 24 日に大阪クリスチャンセンターで開かれたプレ大会には、イスラエルの回復を願う多くの参加者が集い、「新しいひとりの人」において一致することの大切さを、御霊によって導かれました。アジアで起きているリバイバルの波がエルサレムに届くために、一人ひとりが主によって遣わされた「祭司として」、主の再臨を実現する務めを確認しました。大会は、エイタン・シシコフ師の講演を中心にして、アジア各国が「契約の友」として互いの友情を育むことができました。プレ大会の講師から語られた内容を、お伝えします。

この流れが 11 月の本大会につながり、アジアの「新しいひとりの人」のビジョンが大きく育つよう、祈りたいと思います。

プレ大会主催者からのメッセージ

■村岡大輔　聖書研究会名誉牧師

イスラエルと教会との真の和解には、まずイスラエルを理解することが大事です。イスラエルは、神の御旨に従って生きる責任があり、教会とユダヤ人は使命が違います。イスラエルは、主の来臨を祈る責任があり、イエスは「『主の御名によってきたる者に、祝福あれ』とおまえたちが言う時までは、今後ふたたび、わたしに会うことはないであろう」（マタイ 23:39）と語っています。もちろん、これはユダヤ人だけの責任ではありません。教会も、主の再臨を祈る必要があります。異邦人は、ユダヤ人が主に祈るように協力する使命があります。これこそ教会が 2000 年間存在してきたことの理由です。そしてこの会は、アジアでどのような働きがあるのかを知るために開かれました。さて「新しいひとりの人」というテーマですが、「新しい」とは、「古い」との対比ではなく、考えもしなかった新しさを指します。私たちは、新たにされる必要があるのです。この時初めて、イスラエルも私たち異邦人も心を開くことができるのです。どうか、新しいひとりの人に気づいて下さい。

■村岡丈夫　聖書研究会代表牧師

中田重治師は 80 年前に、イスラエルのために祈れと言われました。しかし、日本だけはでなく、北欧、アメリカでも祈る人々が起こされており、メシアニック・ジューと私たちの交わりも生まれて来たのです。しかし、聖書的に考えて日本人には責任があります。日本を暗示する「日の出る方」という言葉が黙示録７章にあり、そこにはイスラエル 144,000 の額に神の名を印するとあります。そのように、日本人はユダヤ人のために、非常に重要な使命があると私は受け止めています。ユダヤ人に、「主の御名によってきたる者に、祝福あれ」という御言葉を伝え、終わりの時代を導こうとされているのが神の御心です。しかしイェシュアの再臨を抜きにして、救いは完成しません。アブラハム契約は、この地上で成就する必要があります。だから異邦人クリスチャンは、この地上に再臨があり、御国が完成することを考えるべきです。そのために「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」と祈っているのです。イスラエルは約束の民として、アブラハム契約の完成のために働かなければなりません。その意味で、イスラエルの手に、約束の完成が託されています。イスラエルを奮起させるための責任を皆さんと共有することが、アジア・メシアニック・フォーラムの役割だと考えます。

シンガポール大会主催者からのメッセージ

■ギルバート・カルディゲス
ワン・ニュー・マン・アジア代表（シンガポール）

私たちの働きの第１の目的は、まず教会がイスラエルの根につながること、第２にマタイ 23:39 に書かれているように、イスラエルが再臨の主を迎えることです。今の教会は神の計画の成就というビジョンを忘れています。一昨年、アジア・メシアニック・フォーラムの旗を手にしたとき、責任の重さに体が震えました。しかし、さまざまな賜物を持つ多くの人々の協力により働きが進んで行く中で、ヨハネ 17:21 の、「一つになる」というビジョンが与えられました。６月の香港で行われたイスラエル関連の聖会には、中国本土からも多くの参加者がありました。そこで、中国とイスラエルとの間に、霊的な橋をかける必要があることを示されました。イザヤ書 62:10 には「大路を設けよ。石を取りのけ」とあります。「石」とは紛争を意味し、「取りのけ」とは和解を指します。今、アジア各国には紛争の石が多くあります。シンガポール大会は、その「大路」を設け「石」を取りのける集会になると確信します。もう１つのビジョンは「タクロー」（P1）のように、編み合わされて一つになることです。シンガポールはイスラム圏に囲まれ、イスラエルと状況は似ています。妨害から守られるように祈って下さい。

アジアの一致に向けてのメッセージ

■早川衛　埼玉栄光キリスト教会牧師

この大会を通して、アジアのことを考えました。アジアは巨大で、様々な文化や言語、宗教があります。私が牧会する教会には、アジア、イスラム圏、更にラテンアメリカやアフリカの人もいます。主はこうした国々の中から、人々を起こしておられます。私の教会は、アジア全体で起こっていることの縮図なのです。そして、イスラエルもアジアの一員です。イザヤ書 49:11 ～ 12 の預言が成就し、主が、アジアを分け隔てている不一致という「山々」を全て道とされる時が来ます。その時、イスラムの壁も崩壊し、イスラエルの神によってアジアに一致がもたらされると思います。それは同時に、異邦人とユダヤ人が一致する時でもあるのです。このゴールは、「新しいひとりの人」の完成です。それにはまずリバイバルが起こされ、「新しいひとりの人」において、異邦人の数が満ちる必要があります。リバイバルはゴールではなくそのプロセスです。使徒の時代、最大のリバイバルはエペソで起きました。

アジアのリーダーを祝福するメシアニック・ジュー

そのエペソの人々に向かって、パウロは「新しいひとりの人」という奥義を語りました。それが成就しなければ、救いは完成しないからです。アジアが一致してこのゴールに向かうことの重要性を、主は詩編 84:5-7 で示しておられるのです。

■ TJ・シェ　南投霊糧堂宣教師（台湾）

私は台湾に生まれ、33 年間アメリアに住み、宣教活動をするために帰国しました。台湾とイスラエルの関係には、2 つの段階があります。2001 年の 9.11 の直後に、台湾人で初めてイスラエルを訪問する人々が現れ、その後毎年、何百人もの人々が訪問するようになりました。そこからイスラエルとの特別な関係が築かれ、今ではビザなしで入国が可能となりました。これが第 1 段階です。第 2 段階は 2 年前に始まった、メシアニックの兄弟との関係です。神はエイタン・シシコフ師との関係を築かせて下さり、契約の友となるように導いて下さいました。師の著書は、日本語に続いて台湾で中国語に翻訳されました。そして今回、師は初めて台湾に来られます。台湾は、約 2000 万人と言われる、中国の「家の教会」と深い関係を持っています。近い将来、台湾を窓口として、家の教会の多くの指導者がメシアニック・ジューと関係を持つようになると思います。当初、私は日本にメシアニック・ジューのことを伝えようと考えていました。しかし、日本では 80 年以上イスラエルのために祈っていることを知って驚き、逆に教えてもらいたいと願っています。この 10 年間、台湾では原住民と漢民族が和解に導かれ、それがイスラエルとの関係に導きました。主のご計画の成就のために、さらに導かれることを願っています。

■イ・ジェハ　中央大学教授・牧師（韓国）

今は、黙示録に書かれている、悪の勢力が世界を支配しようとしている時代です。イスラエルを愛する人々が厳しい迫害を受け、命も危うくなる時が来ようとしています。その中にあって、私たちは重大な決意をもってイスラエルのために祈る必要があります。韓国では 1990 年以降に、イスラエルのために、ハンサランミッション、KIBI（韓国イスラエル聖書研究所）、IMN（イスラエル・ミニストリーズ・ネットワーク）、BFP 韓国支部などが創設されています。そして 2010 年以降、イスラエルに関する会議が増えています。その年に韓国イスラエル祈りの聖会、翌年には、アジア・メシアニック・フォーラム韓国大会、昨年はブルックリン会議と第 2 エルサレム会議などが開かれました。しかし、イスラエルとの関係が深まる一方で、こうした活動に批判もあります。イスラエルと関係を持つことが極端な運動とみられているのです。しかし最後には、イスラエルを愛することが理解される時が来ると考えます。新しい韓国の大統領は、イスラエルに興味を持っているので、その影響もあるでしょう。韓国のキリスト教は、イスラエルの兄弟たちと相互に祝福しあい、経験を分かち合い、契約的友情を築くことを目指しています。役割は異なりますが私たちの価値は同じで、神の子として等しいのです。

■行澤一人　日之出キリスト教会牧師

私は自分自身を「慰めの子」（イザヤ書 40:1）でありたいと願っています。アジアの中で、日本のアイデンティティーを持ちながら、仕える僕としてのリーダーシップを願っています。私は 20 年以上前から、メシアニック・ジューと関係があり、次第にアジアの中の日本のクリスチャンとしての意識が高まりました。神は全人類の祭司としてイスラエルを選ばれ、祭司の国とされたのです。キリストにおいて選ばれたメシアニック・ジューと一つになる時、自分が日本人として神から召し出され、クリスチャンとして何をすべきかが分かってきたのです。聖書の秩序の中で、メシアニック・ジューと諸国民のクリスチャンが一つの体として交わるなら、他の隣人とも「新しいひとりの人」になって行くことを発見しました。沖縄、台湾、宮古島の人々との結びつきの中で、彼らの心の痛み、悲しみの深さに触れてそれと向き合い、互いに癒されて行くことを理解したのです。中国、韓国との関係も、メシアニック・ジューとの関係を通して深まりました。メシアニック・ジューとの固い契約関係の中で、東アジア全体のキリストの体として、彼らと共に主の御心を行って行きたいと思います。

メイン・メッセージ
異邦人とユダヤ人の祭司としての使命と契約的関係

■エイタン・シシコフ　恵みの天幕牧師（イスラエル）

80 年以上にわたってイスラエルのために祈っている人に会い、私の胸は一杯になりました。私は、人間関係の心の機微に触れることを大切にしています。イエスも、「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない」（ヨハネ 15:13）と語っています。今日はまず、神の王国を地上に実現するために貢献したルツとヒラムの事を語ります。ルツ記 1:16-17 で、ルツはその決意を情熱的に語っています。ルツという名の意味は「友」です。神はイスラエルに献身する異邦人に「友」という名を与えました。これこそ今日私が語るべきメッセージで、イスラエルを支援する異邦人は契約に基づく友なのです。ユダヤ人ボアズと異邦人ルツが結婚し、神はその子孫ダビデの末から、イスラエルの王が出ることを約束しました。異邦人とユダヤ人が一つとならなければ、神の王国は実現せず、再臨も成就しないのです。さてもう一人はヒラムです。ソロモンとヒラムの関係は政治的打算ではなく、最も深い友情で結ばれていました。ヒラム王は、イスラエルの神を拝する神殿を建てることを勧め、ソロモンは感謝して小麦と油を送ります。これは収穫と油注ぎを象徴するものです。ところで神殿とは何でしょうか。それは礼拝をするだけの場ではなく、地上における神の栄光を表す場所で、実は私

APSF(P6-7) のチームによる賛美

たちも共に「神の神殿」なのです。そしてユダヤ人には、特別な召しが与えられています。それは人の子のように皆さんに仕えることであり、私たちの共通の目的も神に仕えることです。

誰かが泣いている時、その理由を知らなければ本当の友にはなれません。私は子供のときに死が怖くて、自分がどこへ行くのか分からずに泣きました。ヨエル書 2:17 には、「泣く祭司」の話があります。祭司とは何でしょうか。かつてイスラエルの祭司は、犠牲を捧げ、民の罪を負って神の前に立ち、その執り成しによって人々は赦されました。イェシュアは大祭司として、彼自身の血によって神の前に自らを捧げたのです。更にペテロ第一の手紙では、ユダヤ人だけではなく異邦人も、共に祭司であると述べられています。

イスラエルは今も神から離れ、罪の中にいます。ヨハネによる福音書で、ラザロを復活させる前にイェシュアは大変力強い言葉を彼に語り、泣かれました。既にラザロが復活することを確信していながら、なぜ泣かれたのでしょうか。それは、墓の中で死んでいたラザロではなく、枯れた骨（エゼキエル 37 章）となっているユダヤ民族全体を見ておられたからです。私たちも共に祭司として「イスラエルよ、起きなさい」と、叫ばなければなりません。ヨエル書 2:17 は、「主に仕える祭司たちは、廊と祭壇との間で泣いて言え」と命じています。また、エレミヤは祭司、預言者として働き、荒れ果てたシオンに慰める人もいないと失望して泣きました。エゼキエルは、「新しい心と新しい霊、石の心を除いて肉の心」を神が授けると語っています。硬い石のような心では、祭司の務めはできません。柔らかい心と謙遜な態度が求められます。主の御前で、罪のために泣く祭司として共に立ち、執り成して下さい。

アジア・メシアニック・フォーラム 2013
シンガポール大会への参加のご案内

開 催 日：2013 年 11 月 19 日（火）午後 7 時 30 分
～22 日（金）午後 1 時
開催場所：**コーナストーン・コミュニティ・チャーチ**

■参加ツアー（市内観光や教会訪問も含まれています）
期　間：18 日夜羽田・関空発　25 日朝帰国
参加費：168,000 円　（大会参加費約 7,000 円、
燃油サーチャージ約 25,000 円などは含まれていません。）
連絡先：阪急交通社神戸センター（担当：谷英樹）
TEL 078-331-3589　営業時間 9:30-17:30 土日祝休業
本誌発行の段階で、残席はわずかとなっています。

■個人参加

自分で航空券とホテルを手配して参加される方も、シオンとの架け橋（078-341-7501）までご連絡ください。日本語への同時通訳イヤホンも、予約を受け付けています。

アキバ・コーヘン師の働き

アジア・メシアニック・フォーラム 2011 の講師の一人としてイスラエルから来日し、学問的なメッセージが好評だったアキバ・コーヘン師から、以下のような手紙が届きました。

文中の「マツリアフ」プログラムについては、来日時やそれ以前からこのプロジェクトにかける意気込みをお聞きしたことがあり、ようやく実現にこぎつけたようです。

スーザンと私は、秋の 2 つの催しを全力で準備しているところです。「マツリアフ」という若いリーダーの訓練プログラムと、障害者を持つ家庭の会議 (*) です。

日本の皆様が、イスラエルのビリーバーの一致と成長のために祈り、支援を頂いていることに深く感謝しています。皆さんの支援で、私たちの心と手が強められました。どうぞ、以下の催しのためにお祈り下さい。

■マツリアフ・テストプログラム（9 月 30 日～10 月 4 日）

「マツリアフ」は、ヘブライ語で成功や達成の意。「イスラエルとその社会のために若いリーダー」の頭文字でもあります。

このテストプログラムに、大学生を中心に多くの青年が参加を表明しています。彼らは人生の分岐点に立ち、将来の生活設計を始めています。彼らが社会に出て、さまざまな思想を持つ人々に対して自分の確信を合理的に説明できる力をつけさせたいと考えています。学生たちと共に、何人かの、国内の重要な指導者にも参加してもらう予定です。エルサレム近郊の研修センターでの 5 日間のプログラムに、約 1 万ドルが必要です。

今回のプログラムが成功すれば、来年夏にはドイツで本格的な 3 週間のプログラムを行う計画です。ドイツの研修センターの所長が私の長年の友人なので、料金を割引きした上に、ドイツで 5000 ユーロの資金集めをすると約束して下さいました。2014 年夏には、イスラエルで兵役を終えた若者と、ドイツに飛ぼうと考えています。（イスラエルでは兵役を終えた若者が外国旅行をする風習があります）

■障害者を持つ家庭の会議（9 月 27 日～28 日）

これはイスラエルで初の、障害者を持つビリーバーの家庭の会議です。イスラエルのこれらの家庭が互助するための組織の設立を、主が私たちに示して下さった事に感謝しています。現在のところ、イスラエルには障害者を持つメシアニック・ジューの家族が約 30 あると見られています。その中で、私たちが会ったことがない人々も参加して下さるようなので、とても期待しています。会議の費用は、今のところ 6 ～ 7000 ドルを見込んでいますが、活動内容によっては、もう少しかかる可能性もあります。

私たちは、これらのプロジェクトを示して下さったのは神だと信じており、イスラエルの若いビリーバーや障害者を待つ家庭のため、事業を始めようとしています。今後も困難が予想されますが、前進して行けるようにお祈り下さい。

＊ Special Needs Believers ……「養護が必要な」という意味で「障害者」よりも広い言葉ですが、ここでは「障害者」と訳しました。ちなみに、アキバ・コーヘン師の二男はダウン症です。

サマーキャンプ恵みの天幕・執り成しのニュースから

カツィール（収穫）サマーキャンプ（7月18～24日）は、皆様の祈りによって多くの収穫をもたらし、無事終えることができましたことを心から感謝します。

野外での炊事

今回のキャンプを行ったイスラエル北部の海岸は、この小さな国で最も風光明媚な所です。この地域は、例年7月下旬は蒸し暑くなるのですが、キャンプ中はほど良い気候に恵まれ、関係者は安堵しました。イスラエル全土から10代の若者85人と16人のカウンセラーが集いました。絶景の峡谷をハイキングし、ユーカリの木の間でキャンプファイアーを楽しみました。そして10代のビリーバーとは思えない真剣さで、主を礼拝したのです。しかし最も良かったことは、キャンプの最後に若者たちが自発的に、正直な感想を語ってくれたことでした。

イスラエルの北部の海岸は、かつてカナン人の間で幼児犠牲を含むひどい偶像礼拝が行われた地です。その後、今日ではレバノン領となっているシドンの王の娘、イゼベルの誘惑（列王記上16:30-31、18:4、21:25）によって人々が邪悪な方向に導かれ、それがこの地の精神的土壌の一端を形成しました。こうした背景を持つ場所でキャンプを行うために、一層の祈りが求められると私は感じていました。

キャンプには、14～18才の子供たちが、イスラエル国内の20のコングリゲーションから参加しました。中には去年の夏から、このキャンプを待ちこがれていた若者もいました。子供たちと過ごした7日間は、彼らと交わる大切な時となりました。メシアニック・ジューの若者は、霊的な戦いの最前線にいます。その戦いとは、主ご自身の御国のために、メシア・イェシュアの愛に人々の心の扉を開くことです。そのために、神の霊に触れられ、感動し、癒され、動機づけられ、そして若いイスラエル人ビリーバーとして解放される必要があるのです。

キャンプのテーマは、心から神により頼み、御声を聞き、従うという主旨から「ギアーを切り替え、前進しよう！」と決めました。今、私たちは非常に厳しい時代にいますが、しかし若者には好機ともいえるのです。それは闇との戦いのただ中にあって、彼らこそ「輝く」という最高の位置に置かれているからです。ここに、キャンプに参加した若者の感想をご紹介します。（子供を保護するために、仮名とします）

●エリシェバ（17才）　私の人生で、多くの重荷を負うというとても困難な時にあったので、「何とかして下さい！」と主にお願いしました。すると後半の3日間は信じられないことが起こったのです。神は小さな出来事を通して、本当に語りかけて下さったのです。カウンセラーの皆さん、ありがとうございます！

●ケレン（15才）　キャンプに参加する前、人生は厳しいと感じていました。しかし、困難な時でも神は私たちの人生の中で働かれます。ここに来たら、すべてが私を自由にする方向に動き始めました。神はすごいお方で、私たちを満たして下さいます。神の霊は個々の人に話しかけ、個人的なつながりを持とうとしておられ、カツィールはその関係の成長を助けてくれます。

●モシェ（15才）　このキャンプで、あまりにも多くのことが起こったので、何と説明したらいいか分かりません。去年のキャンプで、大胆に伝道しようと決心しましたが、家に帰ると部屋に閉じこもってしまいました。今年はもっと地道に人々の人生に触れようと考えており、もう閉じこもるつもりはありません。賛美と礼拝で壁が破れ、自分自身を神に明け渡すことができました。この導きが僕を変えました。神を礼拝し続けます。

●エフライム（16才）　涙、努力、誠実さによって、僕たちは成長します。神は私たちが泥沼を越えて行けるように導き、「がんばれ！」と言われるのです。私には敵がいますが、その敵と戦える力を与えられました。

こうした若いイスラエル人ビリーバーが、新たな段階へと成長できるように執り成して下さい。10代の若者のサマーキャンプは、参加者も少なく、とても小さな活動のように思われるかもしれません。しかし、こうした若者たちこそ、主の再臨を推進する働きの担い手だと、私は信じています。若いイスラエル人のために、引き続き執り成して下さい。すでに信じた若者は、信仰を強められ、救いの喜びで満たされるように。まだ信じていない若者は、霊的な飢え渇きによってメシアの腕の中に飛び込むことができるように。

エイタン・シシコフ

エイタン・シシコフ著
それじゃ、私たちは？
（1470円）
イーグレープ刊
好評発売中
ご注文は
シオンとの架け橋出版部
（TEL 078-341-7501）
まで。

レオン・マジン師セミナー
崩壊していく世界は「回復」するのか？

■東京 **お茶の水クリスチャンセンター**
9/28（土）午後1時15分～3時45分・4時30分～6時30分
■大阪 **大阪クリスチャンセンター**
9/30（月）午後4時30分～6時30分
10/1（火）午前10時～12時・午後2時～5時
■札幌　**キリスト聖協団札幌教会オリーブチャペル**
10/2（水）午後2時～4時（教職者向け）・6時～8時（一般向け）
■主催 **聖書に学ぶ会**　■開催協力 **シオンとの架け橋**　078-341-7501

アジア太平洋シャロームフェスティバルに参加して

石井田直二

淡路島に向かうバスの中で、エイタン・シシコフ師に「今夜、聖餐式をしたいんだが……」と言われ、あわてた。さっきから何度か「聖餐式」という言葉は聞いていたが、まさか今夜だとは……。電話でコーディネイターの高橋姉に確認してみたが、会場には「何もない」。どこかで 130 人分のぶどうジュースとパンを手に入れなければならない。

淡路島の陸の港（バス停）に着く直前、バスの車窓から見回すと、コンビニが一つ。シシコフ師を冷房の効いた室内に残し、私はコンビニまで走った。しかし、ぶどうジュースは小さいパックが 1 本だけで、とても足りない。半年前にぶどうジュースと紙コップを買いに走った時の記憶が脳裏をよぎる。確かに、過越の祭と聖餐式はつながっている……。

そんなことを考えながら炎天下を歩き回っていると、何と、目の前に大きなスーパーがあるではないか。やっと 130 人分の紙コップと食材を手に入れることができた。

■ユースの和解の集会

アジア・太平洋・シャローム・フェスティバル（APSF）という集会は 2008 年、イスラエルの園の墓で、不思議な導きを受けて始まった。

ある国際聖会で、台湾から来た TJ・シェ牧師夫妻が、沖縄の具志堅一家と出会い、琉球人と台湾原住民との間で 1871 年に発生した牡丹社事件のことを知った。この事件は後に、日本の台湾支配につながった重大な事件である。そこで彼らはその事件について、その場で和解を行った。

そして、この和解のビジョンを若者に伝えるため、2011 年に沖縄で、2012 年には台湾でキャンプが行われた。今年のキャンプは第 3 回となる。APSF は、アジア・メシアニック・フォーラム（AMF）と全く別に始まった集会だが、イスラエルを通じてアジア諸民族が和解するという方向性としては共通のものを持っている。そこで、今回は日程を調整して、APSF と AMF を連続開催し、相互に協力することになった。

APSF はユース向けの集会だ。キャンプ中、25 歳以下の人々をステージに上げ、年配者が祝福するという時間があったが、8 割ほどの人々がステージに上がっていた。

アジア各国で、イスラエルのために祈る若者が多く起こされていることは、非常に心強い。キャンプには、イスラエルの重要性を理解した青年たちだけでなく、そうでない人々も

集会の様子

多く集まっていた。彼らが、メシアニック・ジューの存在を知り、その中でも最高の教師の一人から、ユース向けに語られるメッセージを聞く機会が与えられたのは、素晴らしいことだ。

日本からの参加者は、大阪だけではなく、仙台、東京、沖縄、宮古島など各地から集まった。外国勢の大半を占めたのは台湾チームで、中国本土から来た漢民族のほか、台湾の少

第 3 回アジア・太平洋・シャロームキャンプ&フェスティバルの概要

開催日：2013年8月20日～23日
会場　：国立淡路青少年交流の家（キャンプ）
　　エル・おおさか（フェスティバル）

キャンプの目標：

1. アジアにおける諸民族が、神様から頂いた固有の文化と歴史に根差して主を礼拝することの意義を尊重し、相互の尊敬と受容を通して、アジクのクリスチャンが一つとなること。
2. アジアのクリスチャンがキリストの体にある和解と平和を実現し、これを次世代の聖徒たちに受け渡していくこと。
3. 終わりの時代における主の御心として、現代に回復された「イスラエルの残りの者」であるメシアニック・ジューの兄弟たちと諸国民の聖徒が、キリストにあって一つの体を形作っていくこと。

主催：第 3 回アジア・太平洋・シャロームキャンプ&
　　フェスティバル実行委員会（事務局　日之出キリスト教会）
協力団体：シオンとの架け橋、シオンの喜び

数民族（原住民族）からも、ブヌン族など４部族が参加した。それぞれの民族のアイデンティティーを保ったまま、キリストにあって一つになるというビジョンによるものだ。台湾チームを率いたTJ・シェ牧師らは、原住民族は「祭司」として、台湾全土のために執り成す使命を持っていると語った。

台湾チームは40人を超える大所帯だったが、ユース活動を積み上げて来ているだけに、とてもまとまりがあり、ダンスや賛美も見ごたえがあった。

■自然の中での交流

キャンプは好天に恵まれ、青少年たちは自然の中で交流を楽しんでいた。参加者からは、「空の青と海の青が素晴らしい」と感嘆の声も聞かれた。

食事は、淡路島の新鮮な食材が使われており、文句なしにおいしい。バイキング形式のセルフサービスだが、料理の味は高級レストラン並みだと思う。ただ、食堂の収容人数に比べて宿泊者数が多いため、グループ単位で入れ替え制になっており、食事をゆっくり食べられなかったのは残念だ。

ここは規則が厳しく、頻繁にエアコンが自動シャットダウンされるなど、くつろぐ暇が無い。「収容所なみ」だと、ぼやく声もあったが、研修施設だからやむを得ないだろう。

施設の裏門から歩いてすぐの場所には阿万海水浴場もあり、自由時間となった2日目午前には多くの参加者が海岸を訪れた。途中、漁船の人に活きた魚を見せてもらうなどして、楽しく時を過ごした。多少不便でも、自然の中で交流できたのは、とても良かったと思う。

■真の和解に向けて

今回初めて参加する人々も多かったため、集会は、まず今までの経緯を紹介するところから始まった。各国のチームや、それぞれの地域の紹介があり、具体的な祈りの課題に基づき祈りがささげられた。

また、イスラエルから参加したアンナさんと、アントンさんも証を語った。いずれも、メシアニック二世で、一世のような華々しい「奇跡的」な証ではなかったが、それぞれメシアニックの家庭に育ち、信仰の試練を乗り越えて積極的に運動に関わるようになった体験を語ってくれた。この集会に参加したユースの多くは、同じようにクリスチャン家庭の出身なので、彼らの証は好感を持って受け止められたと思う。

イスラエルから参加した
アンナさん（左）とアントンさん（右）

韓国チームを率いたイ・ジェハ師は、日韓の間の苦い過去の歴史を正確に知る所から和解と一致が始まると、子供たちに向けて語った。同師は、2010年の聖会で韓国を代表し、自らの反日感情を告白して悔い改めて以来、日本を愛するようになり、私たちの重要なパートナーとなっている。

食事時間の交わり

シンガポールから参加したギルバート・カルディゲス師は、イスラエルとのパートナーシップこそが、アジアの一致の鍵だと語った。カルディゲス師はその場では何も語らなかったが、実は、師の祖父は第二次大戦中、日本兵に拷問され、下半身不随のまま生涯を終えている。

シシコフ師も、クリスチャンたちがユダヤ人を迫害したという事実をしっかり認識すべきだと、繰り返し語られた。私たちは、ユダヤ民族が通って来た苦難の歴史を、まずは理解する必要がある。和解の前に、正しく歴史を理解し、その上で互いに赦し合い、キリストにある一致を受けとめる、というメッセージは、若い人々の心に届いたと思う。

今回の集会で、頭が痛かったのは通訳の問題だ。アジア各国からの参加者が、日本語、中国語、英語、ヘブライ語、韓国語で話し合う国際的な雰囲気となり、中国人と日本人が韓国語で話し合う一幕も。2言語で、55人分の同時通訳機器がフル稼働する複雑なオペレーションだった。

■世代間の和解と「新しい一人の人」

必死になって準備した聖餐式のセットを前に、エイタン・シシコフ師が子供たちに語ったのは「新しい一人の人」（エペソ2:15）という主題だった。子供は高齢者をうとましく思うが、高齢者から学ばなければ成長はできない。そして、高齢者もまた若者を見下さず、真剣に向き合って育てる必要がある。私たちは互いに悔い改め、キリストにあって新たにされる必要がある。そして、全員を前に立たせ、シシコフ師はとても簡素な「イスラエル式」の聖餐式を行った。

3泊4日の集会は終わったが、青年たちは、すでにインターネットで交流を深めている。APSFの後で、年配の私もフェイスブックで、アジア各地の20人ほどの若者から友人の申請を受け取った。このノリは、大人の集会とは全く違う。

若者たちのネットワークは、やがて彼らが成長すると共に祈りのネットワークへと発展し、アジアでも日本でも突破口を開くことになるだろう。

Netivyah
Bible Instruction Ministry
ネティブヤのコーナー

聖霊の「第４の波」

ユダヤ暦 5774 年の新年にあたって、神の計画と私たちの働きの未来について考えてみました。私が 1968 年以来献身してきた、すべてのイスラエルの救いのために、現実主義者として将来を見通す必要があります。先月、ビジョンを受けて活動している韓国人クリスチャンから良い方法を学びました。彼らはイェシュアを受け入れていないユダヤ人共同体とメシアニック・ジューの双方と協力しながら、イスラエルとユダヤ人を祝福するビジョンを進めているのです。

多くのイスラエルを支援する働きは、一般のユダヤ人共同体と、イェシュアを受け入れているメシアの体の両方との関係を持ってはいません。私たちにはすべてのイスラエルに、イェシュアが人類歴史で最も偉大なユダヤ人であり、メシアであることを示すビジョンと計画があります。

私は、韓国人クリスチャンがニューヨークのユダヤ人共同体のために行ったイベントに参加しました。彼らは、ヨーロッパでクリスチャンがしてきた長年のユダヤ人迫害の悔い改めのメッセージを伝えるために、ユダヤ人共同体から多くの人々を集めようとしたのです。そして、このイベントに、正統派、改革派など様々な傾向の約 150 人のラビも参加しました。

私が印象深かったのは、彼らがイェシュアのユダヤ人弟子と、イェシュアを受け入れていないユダヤ人共同体が互いに好意を持ち、関係ができるように仕向けたことです。ユダヤ人のイェシュアの弟子は、135 年にローマに反乱を起こすまでは、他のユダヤ人と同じ共同体に属していましたが、敵意と隔たりによって、今は関係を作るのが困難になっています。

しかしクリスチャンはどちらの共同体からも、離れてはならないのです。ユダヤ人の兄弟を支える（ローマ 15:26-27）とともに、「救いはユダヤ人から」とあるように、イェシュアを受け入れていないユダヤ民族ともつながる責任があるのです。

この新しい年にあたって、メシアの体に聖霊の働きの「第４の波」が起こるように祈ります。この波には以下の３つの事が関連しています。1）キリストの体の一致―イェシュアの体の様々な部分の間の関係と、イスラエルと教会の関係の回復。2）歴史的文脈での聖書の真理の探究―聖書の真理の探究は、長年にわたって重要な問題として取り扱われたことがなく、それぞれの教派は、自分の教理を守ることに終始している。3）聖徒の共同体での明らかな神の力の顕現―テレビのショーのような見せかけではなく、検証可能で、正確な記録が残るもの。

私は既に、この第４の波を神は起こしておられると確信しており、それは世界各地で、互いに関係のない個人が、聖書の真理と福音のユダヤ性について探し求めるという形で始まっているのです。しかし、これはただの始まりで、まだ大きな成果を上げるには至っていません。

シンガポールのアジア・メシアニック・フォーラムで、この第４の波の火が燃え上がることを祈っています。さまざまな所で起こっている、聖書の真理と、ユダヤ人やイスラエルとの関係、そしてイェシュアのユダヤ的ルーツを求める動きは、驚くべき主のわざです。今年の２月にブラジルで、カトリックの聖職者がユダヤ人に謝罪し、８月には韓国人のクリスチャンがニューヨークで、ユダヤ人の代表者に罪を告白しました。

始まりは小さな出来事でも、イスラエルと教会の預言的未来は大きく広がっています。ネティブヤは小さいので、聖霊が私たちを、他の人々を第４の波に結び付ける「触媒」として用いて下さることを期待します。そのために、心を開いて「神の意識」を受け入れ、私たちの考えではなく神の知恵によって行動するしかありません。

私たちは神の約束を信じ、1 世紀の弟子たちと同じ情熱で再臨を待ち望むべきです。そしてただ待つのではなく、自分自身を整え、神が、イスラエルや世界中のユダヤ人の中で行っておられることを支えるべきです。11 月のアジア・メシアニック・フォーラムで、この神の火が参加者の心をとらえるように祈っています。

ヨセフ・シュラム

シュラム師夫妻&ハナさん来日決定！

今年はネティブヤから、春のユダ・バハナ師に続いて、11 月にヨセフ・シュラム師とマーシャ夫人、そしてハナ・コブナーさんに来日して下さいます。ハナさんは旅行ガイドとして、ご存じの方も多いと思います。シュラム師のユダヤ的メッセージと共に、女性の観点からの証などもお聞き頂けます。シュラム師には、エレミヤを中心に、預言について語っていただきます。ご期待ください。

■大阪集中セミナー
11月5日（火） 午後**2**～**5**時・**6**時**30**分～**8**時**30**分
11月6日（水） 午前**10**～**12**時・午後**2**～**5**時
ニューオーサカホテル
（ＪＲ「新大阪」より徒歩３分）

■京都女性セミナー（講師はマーシャ夫人とハナさん）
11月7日（木） 午後**2**～**5**時
京都グローリーチャーチ
（阪急「西院」より南西へ徒歩８分）

■名古屋セミナー
11月8日（金） 午後**2**～**5**時・**6**時**30**分～**8**時**30**分
愛知県産業労働センター
（ＪＲ・地下鉄・近鉄・名鉄「名古屋」より徒歩５分）

■東京セミナー
11月9日（土） 午後**2**～**5**時
TKP 大手町カンファレンスセンター
（東京メトロ・都営地下鉄「大手町」Ｃ１出口直結）

■主催 聖書に学ぶ会 ■開催協力 シオンとの架け橋 078-341-7501

一般のユダヤ人とメシアニック・ジューの和解
ネティブヤの夏のアクティビティー

今年のネティブヤでは、若いユダ師主導で多くのフェローシップ活動が行われています。ここ2、3カ月は、食事会を兼ねたピクニックが平日の夕方に行われ、その後数か月間も、カフェでの茶話会やバーベキュー、ボーリングなど、フェローシップを目的としたアクティビティーが月に1度予定されています。このようなイベントがあるので、シャバット以外にもメンバーと顔を合わせる機会が増え、コングリゲーションの絆を深めることができます。その一環として、7月上旬の週末に宿泊セミナーがイスラエル北部で行われました。

テーマは「人の子とは誰か」。これはマタイによる福音書16:13でイェシュアが、ガリラヤ北部のピリポ・カイザリヤで弟子たちにされた質問です。この事件から約2000年経った、21世紀の使徒である私たちが時を越え、もう1度この質問と向き合おうというのがセミナーの趣旨でした。多くのメンバーや海外からのゲストが参加を希望しましたが、バスの席数や手配した部屋数など諸事情により、最終的には先着の約40人が参加できました。

■荒野を抜けて緑あふれるガリラヤへ

金曜の朝に集合し、海抜750mのエルサレム市街からマイナス約200mに位置するエリコ付近の死海北端まで、ユダヤ砂漠をおよそ1時間で横断し、その後は北上。荒野からヨルダン渓谷を縦断して、ガリラヤ湖畔を抜けイスラエル最北端に広がるゴラン高原に到着しました。殺伐とした荒野から緑溢れるガリラヤまで、数時間のバス旅行ですが、イスラエルの多彩な自然環境を車窓から感じることができました。

ゴラン高原では、まずダン遺跡を見学。新約聖書には出ませんが、旧約聖書ではイスラエル最北の町であり、北イスラエル王国がベテルと共に聖所を築き、子牛の像を置いたのもここダンでした。政府公認ガイドのハナ・コブナーさんと、ヘブライ大学で聖書考古学を学ばれたシュラム師の2人のガイドで堪能した後、宿泊先のキブツに向かいました。

キブツでは日没時に集会があり、シュラム師が短いメッセージ。救い主、贖い主、神の子としての見方ばかりがキリスト教の世界によって強調された結果、イェシュアと私たちの距離は離れてしまったが、2000年前のイェシュアと使徒たちとは、日本の伝統的な師弟関係のようなものだった。イェシュアという師匠に使徒たちは命を掛けて弟子として仕え、両者の距離は現在の、イエスとクリスチャンの間よりもずっと親密だった。1世紀の使徒のように、イェシュアを師と仰ぐ親密な気持ちを持つべきだというメッセージでした。集会後は、ワインとパンの祝福の後、全員でシャバット・ディナーを食べ、夜は自由時間となりました。

翌朝は、9時からシャバット礼拝が持たれ、その後ピリポ・カイザリヤとして知られるバニアス遺跡を見学しました。遺跡見学の前にユダ師による、「人の子とは誰か」という今セミナーの基調メッセージがありました。歴史背景により変化するメシア像や、贖いや救いという言葉の定義について、そしてイェシュアは世界中全ての義の基であり、彼が土地を支配するのではなく、世界中1人ひとりの心を支配する日が来るという力強いメッセージ。その後バニアスの遺跡を散策しました。

ダンでの川遊び

帰路につく前に、ダン川の滝を見に行きました。滝と言っても日本と比べると「もどき」というぐらいのかなり小さなものですが、砂漠気候が大部分を占めるイスラエルでは、まず滝というもの自体が珍しく、子供たちや若者はしばし滝を見ながら川遊びを楽しみました。

その後は再び、数時間のバスでの長旅を終え、エルサレムで解散。コングリゲーションとの素晴らしい週末が終わったのですが、このセミナーで一番感動的だったのは、シャバットに入る金曜夕方に行われた集会後の出来事です。

■偶然の対話で起こった一般のユダヤ人との「和解」

この集会は、キブツにあったミドラシュ(ラビ文献等を学ぶ部屋)で行われたのですが、私たちを見て不思議に思った一般のユダヤ人宿泊客が、集会後部屋に入って来て、私たちが誰なのかを聞いたのです。

メシアニック・ジューのコングリゲーションだという答えを聞くと、彼は不審感を募らせ信仰的、ユダヤ的立場などについて、詰問するような口調で尋ねて来ました。最初は不審に思っていたその男性も、ビリーバーの、ユダヤ人としてのアイデンティティーの説明や証を聞いて次第に納得し、心を開いて和解することができました。最後には、その男性の提案でユダヤ人男性だけがその場に残り、シナゴグでのシャバット開始の祈りが一緒に捧げられました。

小さな出来事ですが、2000年前に使徒たちがメシアの啓示を受けた場所のすぐ近くで、ユダヤ人の兄弟たちが、イェシュアを信じてもユダヤ人だとその同胞から認められた瞬間に立ち会うことができたのです。この証人になれたことが一番の祝福でした。

イスラエル在住架け橋スタッフ

順調に進む会堂改修工事

ネティブヤの会堂は、古い床や不必要な壁を取りのぞく工事や基礎工事が終わった段階で、現在は通りに面した壁だけが残っています。

反宣教団体によるポスターなどの妨害活動も始まっています。しかし、先日「ヤッド・レアヒム」という大きな反宣教団体のリーダーから電話があり、妨害活動を行っている団体からの協力要請を断っているので、今の妨害と自分たちは関係ないとシュラム師に告げたとのことです。これはネティブヤが正統派からも認められつつあるしるしと言えます。

イェシュアをイスラエルに
ホープ・フォー・イスラエルの働きのご紹介

エルサレムにあるメシアニック・コングリゲーションの数は 20 から 30。ネティブヤのようにユダヤ的なものから、カリスマティックなものまでバラエティーに富んだイェシュアの体が活動しています。そんなエルサレムのビリーバーの、若者や子供たちのため、超教派活動を行っているのが、今回ご紹介するモラン・ローゼンブリット師です。シオンとの架け橋のスタッフが、インタビューしました。

■テロで募った神への不信とアラブ人への憎しみ

モラン師はイスラエル北部にあるキブツに生まれました。全てのキブツニック (キブツのメンバーの意) と同様に世俗派の家庭で生まれ、伝統派だった祖父母のためにバル・ミツバは行いましたが、神を信じない子供として育ちました。19 歳で、多くの若者と同じようにイスラエル国防軍の兵役に就き、そこで悲劇的な事件に直面しました。

新しい部隊に異動した直後、ついこの前まで所属していた部隊が自爆テロに遭ったのです。22 人の犠牲者の中には、親しい友人が数人含まれていました。当時（1995 年）、オスロ合意や、イツハク・ラビン首相とアラファト議長のノーベル賞受賞の直後で、和平機運が高まっていました。そんな矢先に起きたこのテロで、モラン師は以前に増して神の存在を信じなくなったばかりではなく、アラブ人に対する憎悪も募らせて行きました。イスラエルに対する希望を失ったモラン師は、兵役を終えて人生の新しいスタートを切るため、1997 年アメリカに渡りました。

アメリカ滞在中に、知り合いの家族の誘いで、モラン師はカリフォルニアのある教会の礼拝に参加しました。そこで彼はイスラエルやユダヤ人に対するクリスチャンの大きな愛に触れ、礼拝に出席するようになります。ある礼拝で牧師が、「ユダヤ人は神を知っているが個人的な関係を築いていない」とのメッセージを語りました。神を信じてはいませんでしたが怒りを覚えたモラン師は、礼拝後牧師に詰め寄り、「どうして私の民のことをそんな風に言えるのだ？」と詰問すると、牧師から新約聖書を読んでみるよう勧められました。

しばらくたって、人生を変える本と出会います。ヤコブ・ダムカニ師の「Why Me?(なぜわたしなのか ?)」です。それは、イスラエル出身のユダヤ人がどのようにイェシュアに人生をささげたかという証の本で、モラン師はタイトルにひかれ、読み始めました。読み進めるうちにタナハ（旧約聖書）と新約聖書の共通点に気づかされ、ついに、神は間違いなく存在し、その唯一の道はイェシュアだと確信しました。こうしてモラン師はメシアニック・ジューになったのです。

ビリーバーとなったモラン師は、神からイェシュアをイスラエルという我が家に帰らせるという召しを与えられ、2000 年に「ホープ・フォー・イスラエル」というミニストリーをアメリカで立ち上げました。2007 年にイスラエルに活動場所を移し、現在に至っています。

ネリヤーの活動

■様々な若者が集うユースの育成活動

この召しを実現するには、イェシュア自身がされたように弟子の育成が不可欠です。そのビジョンに基づき、モラン師は 3 つの弟子養成プロジェクトを行っています。1 つ目は「ネリヤー」と呼ばれる、兵役前のティーン・エイジャーが対象のもの。もう 1 つは、兵役中の若者対象。そして最後が、兵役後のビリーバーに対する奨学金等の支援制度です。

イスラエルではモラン師のように、兵役が人生の転機になる若者が多くいます。メシアニック・ジューにも兵役中に信仰から離れる若者も少なくありません。ですから、兵役前や兵役中の若者をケアする活動は非常に重要です。そのためにモラン師は、コングリゲーションを超えた活動を行っています。

毎週の集会やボランティア活動などにエルサレム内の約 10 のコングリゲーションの子供たちが参加。ユダヤ的なところからカリスマティックなコングリゲーションまで、そしてロシア系からエチオピア系の子どもまで、バラエティー豊かなイェシュアの若い体が共に活動しています。シオニスト的な活動内容にもかかわらず、時にはアラブ人クリスチャンも出席します。兵役が近づいてきた若者たちのためには特別のプログラムも用意されています。

■イスラエル社会全体に向けて

若者に向けた活動だけではなく、ロシュ・ハシャナとペサハの大規模な食糧配布、兵士への物資支援、テロの被害者や家族のための働きや、有事の疎開先の提供など、イスラエル社会全体に対する奉仕活動も多岐にわたっています。

その中でも興味深いのが、ツアーの企画、運営です。メシアニック・ジューが企画したツアーには、ビリーバーのガイドを使うことが多いのですが、モラン師はあえて未信者のガイドに依頼しています。

イスラエルを愛するクリスチャンやメシアニック・ジューと触れ合うことが有効な伝道方法だと考えているからです。ツアーをガイドしたことがきっかけでビリーバーになったガイドもいます。

インタビューの最後に、「イスラエルで活動する中で特に気をつけていることは何か」と質問すると「イスラエル社会に受け入れられるためには、まず私たちが彼らを受け入れなければいけない」という答えが返ってきました。

モラン師は、ヨセフ・シュラム師の、ネティブヤの役員会の一員として、ユダヤ性を重視しつつ、幅広い層のコングリゲーションと共に活動してコングリゲーション間の架け橋の役割を担っています。今後の活躍を期待したいと思います。

和解の証し

カレン・デービス

私はアメリカの、中流より少し上のユダヤ人家庭で育ちました。家族はユダヤの祭日にはシナゴグへ行きましたが、私たちが実際に信じていたのは人間主義だったのです。私はクラシック音楽を学びながら育ち、美術学校で絵画を学びました。そして、靴のモデルをしながら、ボイストレーニングなどを続けていました。

私はずっと、神とは美しさや音楽のハーモニーなどを作る霊だと考え、ニューエイジやカルトなどで「永遠の真理」を探し続けていました。しかし心の中にはすきまがあり、それは恋愛などでは埋まらなかったのです。そこで、ある友人にこの話をすると、彼女は聖書を開いて心のすきまについて語ってくれました。その後、彼女に招かれてゴスペルコンサートに行き、彼らには真理があると思い、感動して泣き出しました。しかし、キリスト教徒になることを勧めるメッセージが始まったので、そこから飛び出しました。ユダヤ人の私には関係がないと思ったのです。

■初めての祈りで悟った大きな赦し

その後、ふたたび友人の所に行き全てを話すと、黙って聞いていた彼女が「祈りたくない？」と聞いたのです。今までしたことがなかった、神への祈り。友人の祈りを繰り返し、神に、助けて下さるよう、イエスに、心の中に入って下さるように疑問を感じながらも祈ったのです。終わってから、「これだけが解決の道ではないでしょう？」と言うと、彼女は「これだけよ」と答えました。

その瞬間、真理の霊が私の心を貫き、固定観念をすべて切り裂くのを感じました。そしてその時に、主の偉大な愛とあわれみ、神によって赦されたことを悟りました。神の小羊であるイエスによって、ユダヤ人である私の心を覆っていたベールが、真二つに裂けた至聖所の幕のように取り去られました。

その日、彼女からもらった新約聖書を読んで、イエスも彼の弟子たちもユダヤ人であることに気づきました。また、旧約聖書のメシア預言が新約聖書で成就していることにも気づき、「異邦人の光」として神に選ばれたユダヤ人の意味を理解しました。そして、神の愛が心に流れ込み、古い痛みはすべて取り除かれました。この世の偽りの希望や愛の歌を歌うことができなくなり、神の本当の愛を歌うことが望みとなったのです。喜びと共に父の愛の中にまだ入っていないユダヤ人の同胞への、今まで味わったことのない痛みと悲しみをも感じました。彼らのために祈り、いつかイスラエルに行き、この恵みをユダヤ人に伝えるという約束を受けたのです。

■アラブ人との和解への導き

そして 1989 年、夫のデビッドと共にイスラエルに帰還し、神の愛と力で麻薬常用者を回復させる活動を始めました。イスラエルで麻薬がまん延しているのを最初に教えてくれたのが、エルサレム旧市街のアラブ人の老婆であったことや、この頃にガリラヤのアラブ人牧師が奉仕に招いてくれたことは偶然ではないと思います。

その村に行く途中、敵意や怒りは感じなかったのですが、ただ心が冷え切っていることに気づきました。ユダヤ人のためにイスラエルに来たのではなかったか、また、アラブ人は本当に敵なのかと疑問に感じ、車を止めて祈りました。「あなたがたが自分を愛する者を愛したからとて、なんの報いがあろうか。そのようなことは取税人でもするではないか」(マタイ 5:46) というイエスの言葉を示されました。

主がアラブ人を、ユダヤ人と同様に愛していて、私たちは主の愛を示すためにイスラエルに遣わされたのです。この世においてはイスラエル国民ですが、本当は神の王国の国民です。主は私のイスラエルの地でのすべての活動を通じて、アラブ人とユダヤ人の双方に主の心を伝えることを命じられたのです。私の心は熱くなり、アラブ人への愛で満たされました。アラブ人の村の小さな教会で歓迎され、霊と真理によって歌えることを神に感謝し、一番好きな曲を歌いました。

数か月後、私たちはハイファで、ユダヤ人とアラブ人の麻薬中毒者リハビリ施設を始めました。10 年以上たった今、神の愛が、苦しんでいた人々の心に働き、イェシュアの血によって神と和解する奇跡が起こっています。アラブの村に行く日に起こされた働きを神はまだ続けています。ユダヤ人への敵意が語られることも多いアラビア語を聞くと、心が穏やかでいられない時もあります。しかし、アラブ人の兄弟姉妹たちとの関係を深めながら、アラビア語の祈りや賛美を聞いて、愛の言葉としての美しさを感じています。アラブ人の姉妹から、アラビア語の賛美を習いました。そして今、私はカルメル・アセンブリーの賛美リーダーとして、礼拝の中によくアラビア語の賛美歌を入れています。

主は私たちが神のすまいとなるために、ユダヤ人と異邦人、アラブ人は一つの人となると言われました。私たちの活動はこの一致を表現しており、この神の王国の実態を、多くの人が見ることを望みます。主の愛を知らなかった人たちが、イェシュアこそが本当の平和への道だと気づき始めています。神の小羊の犠牲の血によってのみ、中東におけるユダヤ人とアラブ人として、私たちの心に引っかかっている痛みと敵意を解決することができるのです。

カレン・デービスさんは、ピーター・ツカヒラ師が所属するカルメル・アセンブリーのリーダー、デビッド・デービス師の夫人で、賛美リーダーとしても世界的に有名です。カルメル・アセンブリーでは、ユダヤ人とアラブ人が一つになった賛美が行われています。

Caspari Center
for Biblical and Jewish Studies

カスパリセンター のコーナー

ブリッジ・ビルダー

キリストにあるイスラエルとパレスチナの和解

長年にわたって、イスラエルとパレスチナの紛争は世界中の注目を集めてきました。この紛争地に住んでいる当事者のビリーバーとして、このように困難で悲劇的な政治状況にどのように対応するかを、私たちはいつも問われています。敵をも愛するようにする、福音がもたらす変革する力の証しとして、またメシアの体の一致をより強めるために、私たちは召されているのです。

「ブリッジ・ビルダー」は、イスラエルとパレスチナ、ノルウェーの若者が参加し、信仰による和解を進める、平和のためのプロジェクトです。カスパリセンターとイスラエル、ノルウェー、パレスチナのキリスト教組織が共同で運営しています。その目的は、以下の通りです。

1. 若いノルウェー人が関わり、イスラエル、パレスチナ双方からの参加者が、相互の和解をするための基礎作りを助ける。
2. 相互の理解と知識を深める。
3. 平和のための働き手を教育する。

このプロジェクトは2回のプログラムで構成されており、2006～07年に1回目、2009～10年に2回目が開催されました。3回目となる今回は、前半が2012年8月にノルウェーのフィヨルドと山々に囲まれた場所で、後半は今年の過越しの祭の時期に、ユダの荒野で行われました。それぞれの地域から20～25歳の若者が10名ずつ、合計30名が参加し、7名のリーダーが指導に当たりました。

前半のノルウェーで行われたプログラムでは、関係の基礎作りに重点が置かれました。絵のように美しい平和な環境は、このような関係を始めるのにふさわしい場所です。お互いに語り合うことにより、相手の文化や歴史を学び合い、イエスに従うものとして関係を深めていくのです。

参加者はブリッジ・ビルダーのプログラム以外でも交流を深めるよう推奨されます。昨年の11月はガザでの紛争がおこりましたが、この間もイスラエルとパレスチナのメンバーの交流は続けられました。

後半のプログラムは、仲間であることのアイデンティティに基づいて、より深い話題を語り合いました。前半とは対照的な荒野という環境は、関係をより近づける効果があり、相互理解や対話、和解に適します。ここでの活動では、それまでに築き上げた関係と一致が、試される場面もありました。時として議論があまりにも過熱し、時間をかけて架けてきた橋が崩壊してしまうのではと、参加者が不安になる時もあったのです。しかし、結局起こったことは正反対でした。キリストにある一致への献身と、互いの関係が強められたのです。参加者は一致によって、互いの違いや合意できない点を残しても、互いに愛の絆でつながることができることを学んだのです。

そしてすべての、人と人とを隔てている壁を打ち砕き、私たちの社会が今必要としている変化をもたらすことのできるキリストの愛を宣言するという、私たちの共通の目的へと導かれたのです。

2回目のブリッジ・ビルダーにイスラエルから参加したアディさんは、以下のように語っています。

「私たちは橋を架けています。私たちの間の橋は、私たちの国では周りの人たちに大きな証となるでしょう。この会議に参加する前から、パレスチナ人に敵意があったわけではありません。しかし、彼らの存在に、単に耐えるためにではなく、彼らを愛するために私は召されたのだと、神は教えてくださいました」

この働きで培われた経験や物の見方が、それぞれの社会で波紋のように広がり、中東やノルウェーに平和と和解をもたらすことに寄与すると確信しています。

Jewish Calendar

11月27日 ハヌカ חג החנכה　宮清めの祭（8日間）

外典のマカバイ記に記された、エルサレム神殿の奪還と再奉献を記念する祭。新約聖書ヨハネ伝10:22に現れる。今年は27日の日没から12月5日の日没まで祝われる。

シオンとの架け橋事務局

〒650-0027　神戸市中央区中町通2-2-18　平戸ビル4F
TEL　(078) 341-7501　FAX　(078) 341-7502
e-mail : news@zion-jpn.or.jp　HP : http://www.zion-jpn.or.jp

献金受入口座　郵便振替 00930-5-241773「シオンとの架け橋」

1. ネティブヤ、オハレー・ラハミーム、マオズ・イスラエル、ピーター・ツカヒラ師、カスパリセンターへの献金と明記されている場合は、全額を宛先の団体に送金させていただきます。
2. 「イスラエルのメシアニック・ジューのために」と指定の献金は、全額をイスラエルのメシアニック関連団体に献金させていただきます。おもに1.以外の団体に、配分します。
3. 上記以外の特定の目的や団体のための献金をご希望の場合は、ご連絡ください。可能な範囲で対応させていただきます。
4. シオンとの架け橋のための献金、及びご指定のない献金は、イスラエル回復のための、国内外でのシオンとの架け橋の働きや、その他の働きにあてさせていただきます。

※シオンとの架け橋は、単立教会の「聖書研究会」が運営しています。